

昭和34年度調査研究概況

I 総合研究

1 平城宮跡発掘調査（建造物・歴史）

最近の産業開発や、市街地の発展によつて平城宮跡の一部が破壊される恐れがある。特に現在の一条通ぞいの地区では宅地化の進展が著しく、この部分の埋藏遺跡の調査は緊急を要するので、その中の内裏推定地区より調査を始めた。この調査は第1次五カ年計画として今後続行するものである。

2 飛鳥板蓋宮伝承地発掘調査（建造物・歴史）

大和平野農業用水路予定線上に板蓋宮推定地の石敷遺跡があたるので、これを発掘調査した。なお用水路の開鑿に伴う調査は、昭和31年以来当研究所が担当してきたのであるが、本調査は今後奈良県に引継いで頂くこととなつた。

3 南都諸大寺伽藍地地形実測調査（建造物）

平城宮跡と同様に市街地の発展や観光事業施設の増加によつて諸大寺の旧境内地が変貌しつつある。発掘調査等による旧伽藍の解明が最も望ましいことであるが、その予備調査として現地形の実測を行い、また適切な環境整備や観光施設設計画にも役立てることを目的とし、本年度は東大寺、興福寺等について境内地の測量を行つた。

4 俊乗房重源の研究（美術工芸・歴史）

興正菩薩叡尊の研究（美術工芸）
仁和寺所蔵古文書・聖教の調査（歴史・建築）

昭和34年度調査研究概況

これ等はいづれも前年度より引続いて行つてゐるもので、4・5は本文中にその概要を記し、6は成果の一部を「『常瑜伽院指図』について」として本文中に記した。

7 中世庶民信仰資料の調査研究（美術工芸・歴史） (文部省科学研究費交付金による)

元興寺極楽坊から発見された資料の整理と研究を主眼とし、さらに一層広く中世における庶民信仰の実体を明らかにする目的をもつて、当研究所が主体となり、奈良・京都国立博物館、その他諸大学の協力を得て調査研究を行つたもので、その一部の『印仏』に関する調査経過を本文中に報告した。

II 各個研究

1 美術工芸研究室・彫刻

いずれも前年度より続行しているものであるが、

藤原彫刻の研究・鎌倉時代における院派仏師の研究・能楽発達期における能狂言面の研究等を行い（本文中に報告）、また新しく聖徳太子像の研究に着手した。なお奈良国立博物館と協同して長谷寺の寺宝調査を、又依頼によつて淡島の文化財調査を行つた。

2 美術工芸研究室・工芸

工芸室は美術工芸研究室の総合調査に際しては彫刻、絵画室とともに之にその調査にあつた。工芸室の調査範囲は非常な広範囲にわたるが、出来る限り全面的に調査を行つてゐる。それと平行的に工

芸室の研究テーマを四つもつ。（1）は舍利塔の様式的研究を行つてゐるがその目的とするところは、東大寺様式、唐招提寺様式、西大寺様式をはじめ全国の寺社に残存する多くの舍利塔の様式とそれがもつ美術工芸的価値の連関性の分類にある。（2）は、厨子の研究であるが、これは厨子の年代差による型態の変化と工芸技術の特異性の解明に努力している。（3）は、能衣裳と小袖の研究で能衣裳と小袖を美術史的、染織史的に研究し、さらに芸能史、服装史の観点からも研究する。（4）は、美術工芸作品に見られる文様の日本的研究。美術工芸作品に表出されている文様は外來系のものと日本系のものと大別されるが、それらの文様から日本の文様の撰出とその実証、それらの史的発展過程の究明にあたる。手向山神社宝物の調査は四のテーマの一環として実施したが、幾つかの興味ある問題を得た。図版紹介はその一部である。

3 歴史研究室・古文書

前年度より引続いて興福寺所蔵の古文書典籍等の調査を行い、その中覚遍本明本抄について本文中に紹介した。

4 歴史研究室・考古

出土品の整理、分類によつて古瓦及び土師器・須恵器の編年的研究を行つた。

5 建造物研究室・建築

建造物の解体修理工事に伴う調査研究を、当麻寺曼荼羅堂その他について行つた。なお名神高速道路工事に附随した瀬田廢寺発掘調査を滋賀県よりの依頼によつて考古室と協同で行つた。

6 建造物研究室・遺跡庭園

概要を本文中に報告。